

客員教授紹介

農学国際教育協力研究センターでは、設立2年目の本年4月以降、センターの活動力量を強化するため、I種（日本人、任期1年間）1名とIII種（外国人；任期1年～数年）1名の枠内で、国内外から客員教授を迎えることになった。客員教授（III種）については、本年度は3ヶ月ごとに1人づつ、計3名を招待する計画であり、現在すでに2人目をお迎えしている。

ICCAEに期待するもの

ひろ た まさ かず
前・国際協力銀行検査部上席検査役 **広田 政一**
(任期：2000年4月1日～2001年3月31日)

私が現在、所属している協力ネットワーク開発研究領域は、「プロジェクトマネジメントの手法の開発」や「コンソーシアムとネットワークの形成」を目的としています。私自身は農業の専門家ではありませんが、これまでの国際協力の経験をこの分野にどのように生かしていくかが、当面の課題となっています。幸いにも、OECF（現JBIC）において農業分野の国際協力、とりわけ、資金協力において多くの途上国案件のプロジェクト・サイクル（発掘—審査—監理—評価）の各段階に携わりました。また、本年9月にメルコスール（南米南部共同市場）の農業開発・農業協力の実態調査を行い、現場の現況を把握することができました。

略歴 1946年東京生まれ。慶応義塾大学、同大学院修士課程修了（経済政策）、海外経済協力基金（OECF）に入り、主に中南米の経済協力を担当。ペルー（リマ）駐在員、中南米課長、米州開発銀行（IDB）勤務後、国際協力銀行（JBIC）の検査部上席検査役を経て現在に至る。専門は、国際公共政策論、開発経済論。

ICCAEが今後、更に発展していくうえでの手だてとしては、業務の拡大、国内外の諸大学との連携、援助機関や国際機関との共同研究への参加や、ICCAEで5月から開始したODA研究会の充実が考えられます。それには、現在の優秀なスタッフを活用しやすくとともに、人材の育成をはかることが必要でしょう。また、名古屋大学として、このセンターが特色ある活動をしていることを、大学内はもちろんのこと、他の大学や研究機関に周知させたら良いと思います。その点、現在実施中のデータベースの整備はIT時代の要請に沿ったものです。ICCAEが誰からも期待される「知恵袋」の役割を担ってほしいと期待しています。



ODA研究会（講師：広田政一 教授）の検討題目：これまでとこれから

- ① 5月30日 国際協力銀行の機能と活動
- ② 6月27日 プロジェクト・サイクル—理論と事例—
- ③ 7月18日 ODAの評価について—国際協力銀行の円借款の評価方法とその事例—
- ④ 10月4日 観光開発とODA
- ⑤ 11月7日 経済評価の事例研究—農業プロジェクトを中心に—
- ⑥ 12月13日 メルコスールの農業開発

名古屋大学、再見！

チュン チ イェン
中国社会科学院農村発展研究所 **陳 吉元**
(任期：2000年5月1日～2000年7月31日)

私はICCAEと竹谷裕之教授のお陰で、2000年5月～7月末まで3ヶ月の客員研究をしました。皆様のご配慮とご指示を頂き、私は予定通りテーマ「中国農業の支援システムの形態と機能」について論文を作成し、2回の学術研究会を開催でき、横山農園やアサヒビール、東海農政局主催のWTO農業交渉検討会、海部農業技術普及センター等について調査できました。短い時間でしたが、収穫物は多いものでした。在日中、深く印象に残った点は2つあります。一つは、中日両国の農業経済研究者間の交流の必要性和有益

略歴 1934年生まれ。1956年東北人民大学経済学部卒業。同年、中国科学院経済研究所研究員に入所。1985年、中国社会科学院農村発展研究所の研究員兼副所長。1988年、同所長。1998年以降、全国人民代表、中国社会科学院学術員（それぞれ日本の国会議員、学士院会員に相当）。孫治方経済科学賞（中国最高の経済学賞）を5回受賞。中国農業経済学界を代表する研究者。

性についてです。「人多地少」は両国の共通点であり、したがって両国の農業発展、並びに各自の成功経験と失敗の教訓を研究することは、双方に重要な価値をもつものです。二つには、日本で研究し生活する機会を得、日本の社会経済生活、日本人の仕事熱心さ、ルールの遵守、助け合い精神を深く理解できました。私は、また人的素質向上の重要性を骨身に染みま

した。日本を離れるに際し、私たちの学術交流と友好が今後ますます強まることを願います。名古屋大学、再見！



カンボジア王立農業大学(RUA)とICCAEの農業教育に関する国際協力

カンボジア王立農業大学学長補佐 **ヴィソルソック タッチ**
(任期：2000年8月1日～2000年10月31日)

カンボジア王国は、20年におよぶ内戦と長期にわたる経済封鎖、1980年代の国際的孤立のために多大な被害を受け、多くの問題に直面しています。最大の問題は経済成長にあり、その中心はGDPのおよそ45%を占める農業部門です。農業部門は、主に生産性が異常に低いため、発展が遅れています。その発展を促進するためには、何よりもまず農業教育を改善することが重要な課題です。

RUAは、カンボジアにおける農業科学および農業技術の教育、研究、普及に対して責任を負っています。その教育の質の向上に関して、主にカリキュラムに起因する重大な問題に直面していますが、それを解決するには、RUAの人材育成と単位制のカリキュラムを、カンボジアの状況にうまく適応するよう発展させることが不可欠です。

略歴 1971年生まれ。1993年王立プノンペン大学理学部化学科卒業。同年、王立農業大学(RUA)農学科講師(化学・生化学担当)任用と同時に、カンボジア選挙国連オブザーバー団に加わり通訳業務に従事。1995年外国語学科主任。1997年オーストラリア・クイーンズ大学大学院農学研究科修士課程入学、1999年修士学位取得。同年、RUA農学科講師(食品加工担当)任用と同時に、学長補佐および国際協力計画委員会委員長に任命される。

この課題を解決する取り組みの一環として、今回、ICCAEは私を客員教授としてご招待くださり、農業教育改善のためのカリキュラム構築、およびRUAと日本の大学間でのコンソーシアム形成に関する研究の機会を与えてくださいました。私は、松本哲男教授の密接な協力のもとで、名古屋大学の学識豊富で親切的な教授陣との協議や日本のいくつかの大学への視察訪問の経験などを通じて、わが大学に最適のカリキュラムをうまく作成したい、と考えています。その新しいカリキュラムを最大限に生かすためには、新カリキュラムの確立と平行させて、RUA教員の教育能力向上と施設建設を進めることが必須課題であり、この面で国際援助機関からのさらなる援助を緊急に仰ぐ必要があると思います。

ICCAEの懇切なるご協力に対して、心から感謝を申し上げます。

